令和２年４月６日

令和２年度前期始業式　校長あいさつ

皆さん，おはようございます。

この度の人事異動により，隣の取手一高から参りました校長の田村和浩といいます。

皆さんとの初めての出会いの場となるこの始業式・新任式ですが，新型コロナウィルス感染防止のため，今回は放送により行います。大変残念ですがご容赦お願いします。

私は，県西地区の学校を振り出しに，３つの高校で勤務した後，水戸にある県の教育委員会で教育相談（カウンセリング）や文化財，それから公文書といって県の行政に関する文書の仕事を10年ほどしておりました。特に，この取手地区は，竜禅寺や長禅寺などの国指定や県指定の文化財が所在していた関係で，県教委時代は足繁く通っていたのですが，３年前に藤代紫水高校，そしてその次の年には前任校の取手一高，そして本校と連続してこの取手市内の高校の校長を務めることになり，ますますこの地域との縁をかみしめているところです。

さて，赴任早々，４月１日に教室から吹奏楽部の皆さんの練習している音色が聞こえてきました。それぞれの教室でパート練習をしていたので，早速訪ねてみました。

個人的なことになりますが，私は大学時代オーケストラ活動をしており，これまで赴任した学校でもそういった経験をいろいろな場面で生徒の皆さんに話してまいりました。本校の吹奏楽部の皆さんにも，このようなお話をさせてもらいましたが，初めて出会った本校吹奏楽部の生徒の皆さんの，音楽にかける真摯な姿勢に，心がとてもあたたかくなりました。

２日には，グランドに赴いてみました。50m以上も離れていたでしょうか，遠くから私に礼儀正しく挨拶をしてくれる野球部の皆さんが迎えてくれました。このような状況の中，久しぶりに練習ができる，仲間と野球ができる思いがひしひしと伝わってまいりました。

このところ，心が重くなるようなニュースばかりでしたが，皆さんの元気な姿は私をとても元気してくれました。どうもありがとう。

皆さんとの初めての出会いにあたり，今日は，これからの１年間，私がお願いしたいことを２点お話します。

１点目は「Where there's a will, there's a way. 」について。

「意志あるところ　道は開ける」という意味ですが，物事を進めるためには，まず，小さくてもいいですから心に灯火（ともしび）を灯すことです。私はこの言葉が大好きで，前の学校の生徒さんにもずっと呼びかけて来ました。皆さんの身近な例でいえば，こういうことです。

何年か前になりますが，テレビで放映された「ＮＨＫのど自慢　グランドチャンピオン大会」を見ました。そこに，岩手県立水沢高校音楽部の皆さんが出場していました。

かつては，部員が50人以上在籍していたそうですが，現在７名まで減少し，このままでは全国大会に出場できない，という危機感を抱いたそうです。そこで，生徒の皆さんが部員募集のた

めに，「ＮＫＨのど自慢」に出場し，部員募集をしようということになったようです。岩手県で開かれた地区大会で見事チャンピオンとなり，グランドチャンピオン大会に出場することになりました。

曲目は，ＫＡＮさんの「愛は勝つ」。まず，現役の高校生が，この曲を選んだことに驚きました。1990年，今から30年前のリリース。このように始まります。少し，唄ってみましょう。

「心配ないからね　君の想いが　誰かにとどく　明日はきっとある
　どんなに困難で　くじけそうでも　信じることを　決してやめないで」

聴きながら，涙がこぼれました。この歌詞と，彼らの置かれている状況，そして，素晴らしい歌声とハーモニーが私の心を打ちました。

部の危機的状況，「困難で　くじけ」てしまいそうになった時，彼らは，「ＮＨＫのど自慢」に出場するという決断をし，それを実行しました。

後日，水沢高校に電話し，校長先生とお話させて頂きました。全国からたくさん応援メッセージが届いたそうです。私からも，とても素晴らしい時間を過ごさせていただいた旨お伝えしたところ，音楽部の生徒さんにも伝えます，とのお言葉をいただきました。部員は最終的に８名増えてコンクールにも無事出場できたそうです。

水沢高校の皆さんには，部員を増やしたいという「意志」がありました。そして，のど自慢グランドチャンピオン大会出場という道を開いたのです。皆さんと同じ高校生です。皆さんには，どのような「意志」がありますか。最初に触れた部活動に関連すれば，たとえば甲子園へ出る，名古屋国際会議場センチュリーホールを目指す等，その意志を実現するためには，まず行動することが大事です。

２点目，これは今年度最初の職員会議でも先生方にお願いしたのですが，本校本校の校是の一つにもなっている「礼節を重んずること」です。ありがとう，ごめんなさい，を素直に言えること。周りの方々に対する感謝の気持ちと，間違ったときのおわびの言葉。この言葉を大事にするだけで，結構世の中はスムーズに回るものです。

最後に，本校で一生の「よい思い出」を作って下さい。

以前，今年73才になる小田和正さんが，「この年になると，思い出と友達がとても大事なものになる」という話題を読んだことがあります。今とてもこの言葉が身にしみてくるようになりました。

冒頭，私は大学でオーケストラ活動をしていたといいました。筑波大学管弦楽団といいます。そのとき一緒に活動していた仲間は，現在，東京フィルハーモニー交響楽団のコンサートマスターをしています。息子さんは，かつてＮＨＫの大河ドラマ「真田丸」のオープニングテーマでヴァイオリンを弾いていた三浦文彰さんです。筑波大学という，まったく音楽とはかけ離れた環境からプロの世界へと，ここまでの苦労は想像するしかありませんが，こんな友人を持てたこと，彼と一緒に音楽活動ができた「思い出」は，今の私を支えている大きなものとなっています。

さて，ついこの間まで当たり前であったことがそうではない，少し息苦しい状況が続いていますが，明けない夜はありません。先生方も皆さんのために精一杯の取り組みをされています。少しでも「よい思い出」ができるよう，「礼節を重んずる」生活に心がけていきましょう。